

第3期教育大綱の考え方

教育大綱とは

- 地方公共団体における教育の目標や施策の根本的な方針であり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、その策定が義務付けられている。

長崎市教育大綱の考え方

- 長崎市のまちづくりの指針である「[長崎市第五次総合計画](#)」に基づき、「個性輝く人間都市」「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしており、[未来の長崎を担う人材育成を積極的に進めるにあたり、長崎における教育の方向性を明確にする](#)ことを目的とする。
- 長崎市における生涯学習を含めたあらゆる世代に向けた教育政策の考え方を、未来を担う子どもや若者を主役として、「めざすすがた」により表現。

長崎市第五次総合計画「前期基本計画」と「後期基本計画」の比較

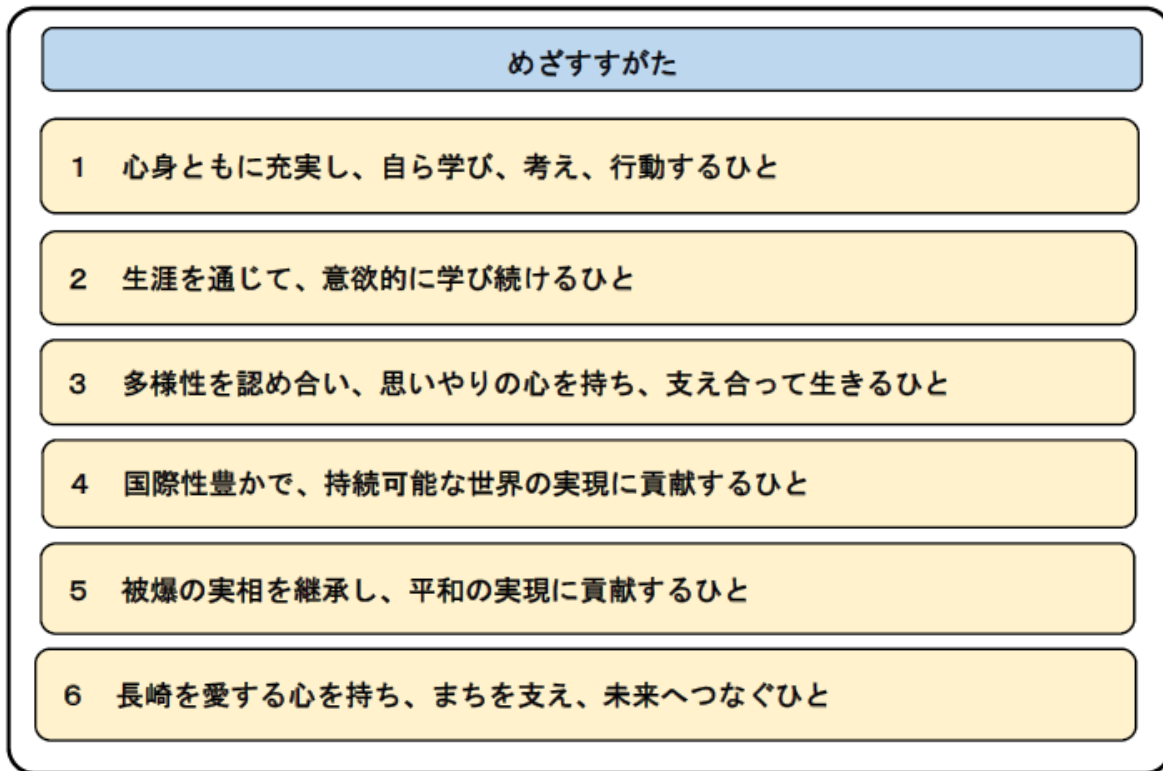
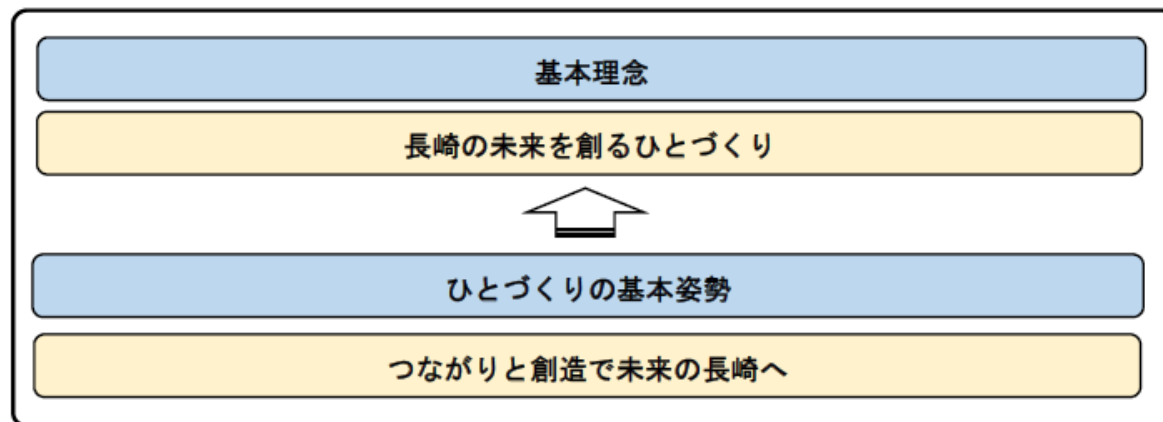
- 施策体系については新たな視点などによる追加・修正などがあるものの大きな方向性や基本的な要素はほぼ同様である。

第3期教育大綱の改訂

- 総合計画後期基本計画において、大きな方向性の変更はないことから、[第3期教育大綱についても基本的には第2期教育大綱における「めざすすがた」を継承](#)したい。
- 第五次総合計画前期基本計画の振り返りから、教育大綱にかかる要素をピックアップして「今後の方向性」となる部分を検討する。
- 総合教育会議において「[考えられる視点やキーワード](#)」について意見交換を行ったうえで、修正及び新たな視点や抜けている要素の追記を行っていく。
- 作業にあたっては、[第五次総合計画後期基本計画の内容と齟齬がないよう](#)に進める。

第2期教育大綱の体系

第2期教育大綱 (令和4年度～令和7年度)



めざすすがた毎のキーワードについて

1

心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動するひと

社会環境が大きく変化する中であっても変わらない価値として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つをバランスよく身に付け、社会的に自立する必要があります。

また、幼児期からの教育を通じて、広い視野と、自分の考えをしっかりと持ち、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、責任を持って行動することで、自分で解決する力を育む必要があります。

1. 習得した基礎的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの能力及び、主体的に学習に取り組む態度を身に付けたひとを育てます。
2. 規則正しい生活習慣、食習慣や体力向上につながる運動習慣などを身に付け、心身ともに健やかなひとを育てます。
3. 自分の考えや問題意識を持つことで、自ら課題を見つけ、課題に対する最善の解決策を導き出し、責任を持って行動するひとを育てます。
4. Society5.0※を見据え、ICT※を基盤とした先端技術を効果的に活用し、主体的・創造的に変化の激しい時代を生きぬく資質・能力を持つひとを育てます。
5. 家庭の社会経済的な背景や、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、安全・安心に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・レジリエンス（しなやかな強さ）

・部活動の地域移行

・教育DXの推進

・情報リテラシー教育（SNSなど）

・地域や家庭で共に学び支え合う

・不登校対策

・子ども相談の体制整備

めざすすがた毎のキーワードについて

2

生涯を通じて、意欲的に学び続けるひと

力強く生き抜いていくための能力を身につける必要があります。新たなことを学び続けるとともに、誰もが生涯を通じていきいきと学び続けられるよう、学びの環境を整える必要があります。

1. 生涯を通じて、学び続ける意欲を持ち、実践していくひとを育てます。
2. 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。
3. 刻々と変化する社会に対応し、必要となる新しい知識やスキルを身に付け、新たなことに挑戦するひと、新たな価値を創造するひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・精神的豊かさの重視
(ウェルビーイング)

・生活の質の向上 (QOL)

・学習指導人材の育成、確保
・学習教材の充実

・変化する社会のなかで「自分らしい
生き方」

めざすがた毎のキーワードについて

3 多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと

ひとは誰もがかけがえのない存在であり、また、社会で生活していく上では、様々な個性、生き方、考え方をを持った人と関わる機会が数多くあることから、まずは一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、お互いを認め合うことにより、人と人とが絆で結ばれ、共に支え合って生きていくことが必要となります。

1. 命の大切さを実感し、自分のことも他人のことも大切にするひとを育てます。
2. 人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、性自認や性的指向など自分とは異なる個性や生き方、考え方を認め、尊重できるひとを育てます。
3. 他人との信頼関係を築くことで、助け合い、支え合い、協働できるひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・ 共生社会・社会的包摂

・ 多様性への理解の深化

めざすがた毎のキーワードについて

4

国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと

社会経済のグローバル化の進展の中においては、日本だけでなく、他国の歴史や文化についても理解を深め、自ら進んで外国の人と交流できる国際感覚を養い、長崎が持つ世界的な価値を発信するとともに、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題の解決に向けたSDGs※（持続可能な開発目標）の達成に向け、自ら当事者として主体的に参加するなど、グローバル※な視点を持つことが必要になります。

1. 外国の文化や考え方を理解し、外国の人々との交流や共生を通して、社会に貢献するひとを育てます。
2. 長崎が持つ世界的な価値や魅力を国内外に発信するひとを育てます。
3. 世界中の人々と連携して持続可能な世界の実現に貢献するひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・ グローバル化・地球規模課題

・ 英語力（交流・発信）の向上

・ サステナビリティ（持続可能性）

・ 脱炭素

めざすがた毎のキーワードについて

5

被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと

原爆被爆から75年が経過し、被爆者のいなくなる時代が現実となりつつある中、被爆体験を被爆者から直接継承することが難しくなっていることから、被爆の実相を正しく理解し、次の世代に確実に継承する必要があります。

また、世界中の人々の、核兵器廃絶や平和に対する考え方は様々であることから、平和の実現に向けては、それぞれの考え方を理解しながら、世界中の人々と対話することや、平和のメッセージを発信していくことが必要となります。

1. 被爆の実相や体験を学び、次の世代に伝えることができるひとを育てます。
2. 核兵器廃絶のメッセージを世界に向けて発信することができるひとを育てます。
3. 世界の現状を知り、平和とは何かを考えることができるひとを育てます。
4. 平和な世界の実現に向けて国、人種、宗教、文化の違いを認め、相互理解のもとに対話や議論をすることで、身近に信頼を生み出すことができるひとを育てます。
5. 日常の中に平和の文化を根付かせ、その文化をひろげるひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・核兵器廃絶、世界恒久平和に向けた役割を担う被爆都市長崎への期待の高まり

・被爆者がいなくなる時代における語り継ぐ「ひと」の育成

・平和の発信

・時代に合った平和教育（デジタルなど）

めざすすがた毎のキーワードについて

6

長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと

海や山に囲まれた豊かな自然、出島に代表される海外との交流の歴史、和蘭文化や世界遺産などへの関心を高め、郷土長崎に誇りを持ち、愛する心を育むとともに、その個性を大切に守り、磨き上げながら、次の世代にしっかりと継承していく必要があります。

また、人口減少、少子化・高齢化の進展やライフスタイルの多様化等の影響により、私たちの暮らしにも大小様々な変化が起きていくことが予想される中、誰もが未来に希望を持ち、暮らし続ける魅力にあふれた長崎のまちであり続けるためには、環境の変化に対応しながら、それぞれの地域や産業を支える人材の育成が不可欠です。

地域で育まれた一人ひとりが、当事者意識を持って、地域で助け合う意識を高めることで、自ら地域を支えるとともに、次の世代を担うひとづくりに努めることにより、世代を超えた地域の活性化につながります。

1. 長崎の豊かな自然や歴史、文化に愛着を感じ、次の世代に継承するひとを育てます。
2. 様々な世代とふれあい、地域との関わりを大切にするひとを育てます。
3. 地域を守り、支える意識を持ち、自ら行動できるひとを育てます。
4. 社会的・職業的に自立し、主体的に社会と関わり貢献するひとを育てます。
5. 次の世代を担う人材を育成することができるひとを育てます。

改訂に向けて考えられる視点やキーワード

・ VUCAの時代
(変動性、不確実性、曖昧性)

・ まちづくりの担い手の育成
(キャリア教育など)